日本正月協会 活動報告書

まさに日本のお正月 2018年版

Just a Japanese Oshogatsu

おもちの製造方法で特許出願

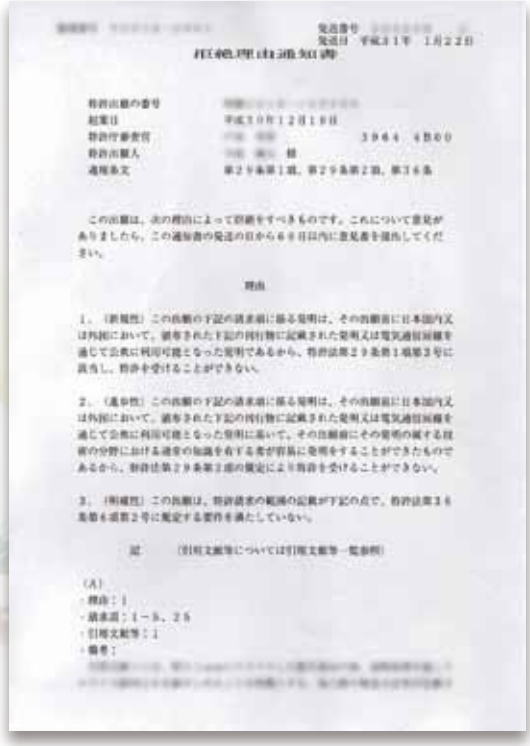
2018 年９月、日本正月協会代表は、もちの加工技術での発明により特許を出願しました。2019 年１月の拒絶査定により、特許取得とはならず、残念な結果とはなりましたが、今後もお正月文化の発展に向け、意欲的に取り組むとのことでした。

出願人である協会代表によれば、
「私は毎日のようにおもちを食べており、新しいおもちの食べ方を日々研究しています。調理師免許を取得していることもあり、調理技術は十分な腕前だと自負しております。そうした中で、これは今までにない加工方法なのでは？と、閃きがありました。もしかしたらすごいことを思い付いたのかもしれない！と、特許文献を調べてみても、類似の技術がありませんでしたので、これはイケると思い、特許出願してみました。」
とのことでした。
協会代表らしい経緯ですね。

しかし、なぜ特許は取得できなかったのでしょうか？

「特許庁からの返答をかいつまんで言うと、技術が簡単だったからです。確かに、類似する特許はなかったのですが、実用新案（特許に似た制度）で類似の技術が公開されていました。そのほか、公知文献に類似の技術が記載されておりまして……。平たく言えば、誰でも思いつくようなアイディアを、特許で守るわけにはいかなかった、ということのようです（苦笑）。特許を取る時は、一度ダメと言われても、しっかり反訴することができれば特許をとれる見込はあるのですが、私の場合、いろいろ検討してみましたが、反論の余地はありませんでした。」

これに懲りず、新たなチャレンジを期待したいですね。


拒絶理由通知書

ものものしい通知の来る特許出願

東北～北陸７県のお正月を聞き取り調査

青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟

2018 年 10 月、日本正月協会代表は、群馬県から東北に向けて出発。新潟、山形、秋田、青森、岩手、宮城、福島と巡りながら、東北から北陸にかけてのお正月の過ごし方を聞き取り調査しました。
お正月の過ごし方は、土地ごとに地域特性が現れますが、今回の調査により、生の声としてそれが浮き彫りになりました。なお、調査結果の公表については未定です。

なまはげも
お出迎え

特定質問によるアンケートを中心に実施

掲載内容についてお気づきの点は、日本正月協会 広報部まで

まずは検索 日本正月協会

商標登録出願中
JSA Japan Shogatsu Association 日本正月協会®
総理事長 今成優太
Site https://www.oshogatsu.org
Shop https://www.oshogatsu.org/shop/
@new_year_japan @jsa_biz

イメージキャラクター「ミスターお正月」の YouTube は https://www.youtube.com/channel/UCr7JVgcuCQMl7ueEiPcgc8g